

新書消息



第48卷 第1号 史学・地理学・考古学

- 近世における徴租法の転換……………森 杉 夫 (1)
——畿内編作徴租法を中心として——
- インド史の時代区分について(上)……………岩 本 裕 (40)
- デーノロー地帯とウエセックス……………鈴木 利 章 (61)
——ウエセックス王権による国土統一政策——
- 大名領国成立期における中心集落の形成……………小林 健 太 郎 (87)
——尾張平野の事例研究による検討——

研究ノート

- 所謂「齊民要術卷頭雜説」について……………米 田 賢 治 郎 (126)

書 評

- 脇田 修 著：近世封建社会の経済構造 ……………大 石 慎 三 郎 (143)

会報 学界消息

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会

一九六五年一月一日 発行

「史林」投稿規定

「史林」投稿の規定は次の通りです。ふるってご寄稿下さい。

◇資格 本会々員にかぎる。

◇原稿の長さ

○研究論文 四百字詰五〇枚程度

○研究ノート 四百字詰五〇枚程度

以上には四百字以内の要約と、英文要約（又は翻訳用要約）添付のこと。

○資料紹介 随意

○学界動向 四百字詰三〇枚以内

○批判と反省 四百字詰三〇枚以内

○書評 四百字詰二五枚以内

○紹介 四百字詰三枚程度

◇送先 「史林」編集委員会宛

◇なお、「史林」の論文掲載の順序は、いわゆる巻頭論文制を採用せず、日本史・東洋史・西洋史・地理学・考古学の順、各専攻の中では時代・地域順となっています。（研究ノート以下もこれに準じる）。

昭和四〇年度科学研究費補助金（奨励研究）の公募について

次の要領で、昭和四〇年度奨励研究の公

募が行なわれますので、お知らせいたします。

一、目的 奨励研究は、大学等の研究機関に研究者として所属する者以外の者が行なう科学研究を助成し、奨励することを目的とする。

二、応募資格者

1、小・中・高等学校等の教員および教育委員会の所管に属する教育機関の職員

2、1以外の者で、科学研究を行なっている者。ただし、学生・生徒および大学・高専等に所属する者をのぞく。

三、書類提出期間

昭和四〇年五月一〇日（月）～一五日（土）
千代田区神田一ツ橋一ノ一に申込むこと。（一組四五五）。

なお、昭和三九年度採択課題数は、二五六件、一課題あたり平均交付額は四万九千円程度の由です。

会員名簿についてお願い

会員名簿は、目下校正を進めておりますが、発刊が大巾におくれましたので、「昭和四〇年四月現在」とし、次号とともにお

届けいたします。つきましては、四月現在にて、ご身分、お勤先などの変更のおありの方は、至急に本会宛ご連絡下さい。

新入会ご希望の方へ

史学研究会へ入会ご希望の方は、住所（「史林」送先）氏名、専攻および送本開始希望巻号を明記の上、会費（年間一、二〇〇円）を添えて直接当会宛お申込下さい。（但し、学校・図書館等公機関は、会費後払で結構です）その際、バックナンバーを併せてお申込下さって結構です。なお、ご送金は、事故防止のためなるべく振替口座（京都五一五五番史学研究会）をご利用下さい。

一九六四年二月二五日印刷
一九六五年一月一日発行 定価二四〇円
史 林 （第四八巻第一号）

発行所 史 学 研 究 会
京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内
理事長 田 村 実 造
振替京都五一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区西七条御所ノ内町五〇

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLVIII, No. 1 Jan., 1965

CONTENTS

Articles :

- The Conversion of Tax-collection Systems
in the *Tokugawa* EraS. Mori (1)
- Über die Einteilung des Zeitalters der
indischen Geschichte(I)Y. Iwamoto (40)
- Danelaw Region and WessexT. Suzuki (61)
- The Organization of the Central Place
in the Forming Period of *Daimyô-Ryôgoku*
大名領国K. Kobayashi (87)

Note :

- So-called "The Commencement Essays of
Chai-min-sha-shu 齊民要術"K. Yoneda (126)

Book Review and News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan